

令和5・6年度調査研究事業報告書<概要版>

県生涯学習センターを核とした地域との連携・協働について

調査研究事業における結果から

令和5年度ニーズ把握調査

【調査先】市町村の生涯学習・社会教育主管課、福祉・学童保育主管課、市民センター等主管課、社会福祉協議会、NPO法人等

【結果】ニーズ把握支援、重点地域ニーズ、事業推進課題、マッチング機能等

令和6年度ヒアリング調査

【調査先】小美玉市教育委員会生涯学習課、東海村社会福祉協議会、FC QOL MITO CIRUELA、茨城新聞社 地域連携室、ひたち若者がやき会議、一般社団法人茨城フロッグス、一般社団法人 recharc、美空野学園「くるりん森」、かすみがうら市リーダーズ高校生会、日立セメント株式会社、フレンズサポーター、NPOセンター・コモンズ グローバルセンター

【結果】事業立ち上げ、センター資源活用、連携きっかけ、ハブ機能、人材育成支援、広報・情報発信等

調査結果からみえてきたこと

・「県生涯学習推進指針」や「茨城の生涯学習」システムの認知度・活用率には向上の余地があり、**情報共有の課題改善**が期待される
 ・地域課題解決において多様な主体との連携・協働を促進し、**知と人材を循環させる中核拠点**としての役割が期待される

事業の成果と課題

今後生涯学習センターに期待される役割・機能

令和5年度ニーズ把握調査

茨城県内の市町村や関係団体等に対し、地域課題対応強化のためのニーズを把握することを目的に実施した。

【成果】

- ・ニーズ把握努力（ステークホルダー意見聴取等中心）
- ・センターによる事業立ち上げ・連携支援
- ・センターの持つ多様な資源（専門性、多様性、総合性）の活用可能性

【課題】

- ・「見過ごされがちなニーズ」発生懸念
- ・関係機関等との連携・協働強化
- ・多様な主体や人材のマッチング機能充実・指導者・支援者の養成・研修不足
- ・課題言語化支援
- ・事業事例・講師情報提供・職員スキルアップ研修
- ・担い手・資金・広報・活動拠点・組織運営等

令和6年度ヒアリング調査

この調査は、質問紙調査の回答機関の中から、先駆的・特徴的な事業を実施している12機関を対象に実施した。

【成果】

- ・地域課題解決事業の立ち上げ支援/きっかけ提供
- ・多様な関係者をつなぐハブ機能/コーディネート機能の可能性
- ・センター資源（専門性・多様性・総合性）の活用可能性

【課題】

- ・関係機関連携・協働/啓発課題（多様主体マッチング機能の充実が必要）
- ・個別活動レベルにおける共通課題
- ・広報不足/認知度向上
- ・資金確保
- ・担い手/スタッフ確保
- ・活動場所不安定/拠点確保等

生涯学習センターの役割と目指す姿

- ・人材育成において中心的な役割
- ・様々な主体をつなぐネットワークのハブ機能
- ・知と人材のプラットフォームとして機能
- ・学びの成果が地域課題解決に結びつく核となること

連携・協働の対象となる多様なステークホルダー

地域住民、行政（市町村自治体、生涯学習・社会教育主管課、福祉・学童保育主管課、市民センター等主管課など）、NPO・地域活動団体、企業・民間団体、学校（小・中・高等学校）、社会福祉協議会、大学・専門学校、その他関係機関等

生涯学習センターの核となる役割・機能

- ・核となる3本柱としての事業展開（現代的課題へのチャレンジ事業、地域のリーダー育成・交流事業、若者のトップランナー育成事業）
- ・人材育成・スキルアップ支援
- ・多様な学習機会・プログラムの提供
- ・連携・協働の場・機会の提供
- ・情報提供・共有の促進
- ・地域ニーズ・課題の吸い上げ、分析支援

連携・協働による相互作用と目指す成果

- ・持続可能な発展
- ・地域社会の活性化
- ・地域を担う人材の育成
- ・主体間相互の連携
- ・地域課題の解決推進
- ・学びの成果の地域への還元
- ・多様な人々が共に生きる共生社会の実現
- ・社会教育分野の裾野拡大

連携・協働推進のための鍵となる要

- ・コーディネート機能の強化
- ・情報発信の強化
- ・事業相互の好循環の促進
- ・多様な主体との良好な関係構築
- ・課題の本質を見極める力の育成